



生駒・南田原産のお米

共同購入のご案内

季節感が希薄となつて久しいですが、毎年この時期の恒例となつている地元産のお米の共同購入を今年もおこないます。

食のあり方が問われている中で、地元でつくられたお米を食べる、「地産地消」のひとつとしてこの共同購入に取り組んできました。

最近も事故米の問題、メラミン混入問題、賞味期限偽装の問題など、食にかかわる問題が頻繁におこっています。

食に関する問題意識が高まるいまこそ、自分たちの目に見える身近なところでつくられた食料を、その地域で使う、「地産地消」を広げていきたいと思つています。

受付をはじめますのでご希望の方はぜひ、ご連絡ください。お問合せ

七八一七〇八〇(西川さん)
七九一二六九七(西田さん)

御杖村のお米もどうぞ

御杖村(奈良県宇陀郡)でとれたお米もあります。ご希望の方は数に限りがありますのであ

らかじめご連絡頂いた上、受け取りに来ていただく方に限らせていただきます。

お問合せ 生駒フォーラム
七一七〇〇

お米は南田原産・御杖村産いずれも一袋30kg一万円



御杖村のお米生産者の山中さん

募集 市民農園
NPO法人「あぐり」
市民農園の運営支援や農業技術の習得、授産、農業体験など、「あぐり」の活動に参加していただく会員を募っています。多くの皆さんをお待ちしています。

申込み ●NPO法人「あぐり」
電話 75-0084
小平尾、南田原とも空き区画あります

南田原 市民農園さつまいも畑でも掘りしてみませんか



生駒フォーラム・市民農園のさつまいも掘りも一〇年を経て、地域の子どもたちやご家族の皆さんが多数参加していただくようになりました。

今年小平尾市民農園のさつまいも畑での掘りは既に予約でいっぱいになってしまいましたが、南田原市民農園にはまだ残っています。

また、黒豆の枝豆も今が旬となっております。ぜひ多くの子どもたちやご家族グループでの掘りにお越し下さい。ご連絡お待ちしております。

黒豆一株 二〇〇円
さつまいも一株 一〇〇円
生駒フォーラム・市民農園部
TEL 七一七〇〇まで

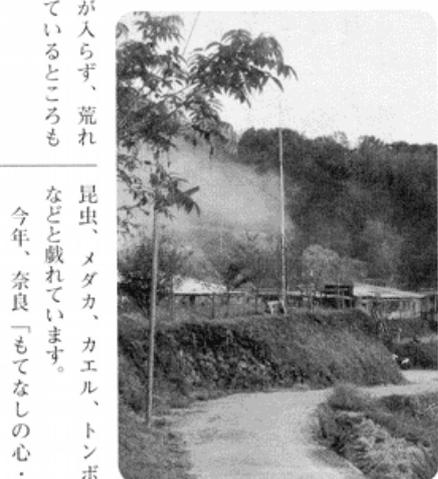
No. 92
発行責任者 高柳 忠夫 (奈良県議会議員)
事務局 東新町2-10
市民オフィス内
TEL. 71-7700
FAX. 71-7800
http://www.1kcn.ne.jp/~forum/
E-mail: forum@kcn.ne.jp

市民ネットワークをめざそう！
情報公開・政治倫理の確立で、市民参加の開かれた市政をめざそう
環境・教育・福祉・学研バイオ研究
に関してのご意見をお寄せ下さい

大人や子どもものいこいの広場 「五反原の里」のご案内 (生駒市小平尾町)



「五反原の里」は、いま、コスモスの花が満開です。



市民のみならず、ご存知のように、生駒山麓には、棚田がたくさんあり、農家の高齢化等で、里山に人手が入らず、荒れのまま放置されているところもありました。

今年、奈良「もてなしの心・推進県民会議」から「五反原の里」が指定地域に選ばれました。市民のみならず！ぜひ一度お越しください。お待ちしております。

- 竹林整備と竹炭づくり
- 雑木を活用したシイタケづくり
- そうめん流し、いも煮、もちつきなど各種イベントなど

近鉄生駒線「南生駒駅」か「萩の台駅」から生駒山方向へ徒歩20分
連絡先 〇九〇-八四六七-二七七〇 (合田)

暗峠奈良街道サミット

歴史を訪ね、まちづくりを考える

暗峠越え奈良街道は、中世から奈良と難波を結ぶ道として開かれました。そして江戸時代には伊勢参りの道として多くの人が利用することになります。

ところが、いまも暗峠付近は街道の雰囲気残り、またハイキングを楽しむ方々の道としても賑わっています。

奈良街道沿いにも風情ある街並みが数多く保存されています。さて、いま生駒山を挟んで大阪側、奈良側と街道沿いの地域でそれぞれの市民グループが、この街道の歴史を振り返り、この街道の景観形成や街道沿いのまちづくりについて考えるため「奈良街道サミット」を企画しています。

そのイベントとして10月11日には暗峠をめざし、生駒側、大阪側それぞれから市民有志が歩いてそれぞれの地域の特産物を交換し、交流を深める企画を行いました。

今後、2010年、平成遷都1300年を一つの目途とし、奈良側、大阪側の街道沿いの地域が持ち回りで歴史、景観、まちづくりを考える場を企画していきます。



今年は街道の雰囲気が色濃く残る大阪市・東成区で第1回目の「サミット」が開催されます。

当面3年間の企画ですが恒常的なものへと発展させていくことも考えられています。ぜひ、多くのみなさんご参加をお待ちしています。

ふるさと回帰フェア2008に参加しました！

団塊の世代の帰農支援などに取り組むNPOふるさと回帰支援センターが主催するふるさと回帰フェアが10月4日、大阪で開催されました。

今年もNPOあぐり、五反原の里のメンバーは地元産品の販売展示で参加しました。

五反原に咲き誇るコスモスやスキを飾り付け、地元産のお米、さつまいも、栗などの販売



NPOあぐり(奈良県)のブースで地元産品を販売しました。

暗峠奈良街道サミット

暗峠の歴史、景観、街道沿いの地域の紹介、まちづくりについてパネル・ディスカッション

10月25日(土)午後1時から5時
玉造サンクスホール
大阪市東成区中道3丁目

14・17 賛賞総機ビル
〇六―六九七二―三九四二

◆コディネーター
初谷 勇
(大阪商業大学大学院教授)

◆パネラー
室 雅博
(奈良まちづくりセンター)

金谷 守峰
(テイクオフ生駒21)

黒田 収
(まちむら研究会・東大阪市)

松下 和史
(東成区未来わがまち推進会議3班)

◆お問い合わせ
テイクオフ生駒21
七三―四一三七(金谷さん)

道草農園9ヶ月目。

……今、感じる「ふさふさ」と「ふさふさ」

草刈りからはじめた畑も9ヶ月とちよつと経ちました。寒い冬の日には、体を動かしてるとなるとか暖かくなりませんが、暑い夏は、どうにもこうにも・・・毎日、何リットル汗をかいたか分かりません。

夏の野菜たちは元気に育って来て、美味しく頂くことができました。また、数軒のお宅やお店に野菜を買っていただけました。ありがとうございます。

1月の状態から思うと自分なりによくなつたものだと思います。ささやかな、そして、小さな一歩を踏み出しました。

夏の終わりは冬の野菜たちの種まきのはじまりの時期です。悲しいことに、芽が出て順調に大きくなってきたところに動物(多分、イノシシ)に畑をひっくりかえされてしまいました。自然の中の仕事、他の動物たちも必死で生きているんだと思いつつも、「あー」と頭を抱えしやがんでしまいました。そんな気分・・・でも、やつぱり、立って、前を見て!!

私の、前向きの気持ちの師匠は、野の草。刈っても、刈っても、どこからでも力強く生えてきます。なんのかけひきもなくただひたすら命を燃やす姿。無心に命を燃やす姿。畑にいて、人生の生き方を学ばせていただいています。

畑から少し話題が大きくなりますが、今年、テレビ、新聞で「環境の問題」「食糧の問題」などなどが大きく取り上げられていました。夏ごろ、石油高騰で、いろいろな問題が垣間見られました。中でも1つ、わかつていたことながら、改めて、石油と食糧との結びつきの問題を感じさせられました。

まず、日本の食糧自給率が40%、つまり、60%の食料は石油を使って海外から運ばれてきます。日本で生産されている40%の食糧も、生産現場では、漁船、トラクターなど石油に頼るところが大きいのです。石油はおそらく20・30年は今と同じような量が採掘できるようなことを聞きましたが、中国、インド、ブラジルなど人口が多い国で、大量に使われはじめるとうるさることか・・・?石油はいずれ少なくなるし、使い続けられたとしても、それが環境に良いわけがありません。

日々、我々の命をつなぐ食べ物。毎日食べている食べ物。これを真剣に考えたとき、命をつなぐ食糧を石油に依存しつづけるのは、良い状態ではありませぬ。「石油がなくなれば生きていけない」のでは、あまりにもさびしく先祖様、未来の子供たちに申し訳ない。我々は知恵を出さないと。

そんな思いもあり、(夏頃から)トラクターも草刈り機も使わないようにして、畑では、鎌(かま)、鍬(くわ)、スコップのみで作業を続けています。私が農業をはじめるときにかけになった川口由一さんの「自然農」を参考にし、また、私の今までの(長野での)経験を生かして、試行錯誤の作業の日々です。

歩みは遅くとも、地に足を付けて、着実に足跡を残していきたいと思っています。いつか、背中で語れる百姓になればと!

畑づくり真最中の草もいっぱい刈りですが、よかつたら見学に来てください。いろんな、虫、動物がいて、命いっぱい畑で育てた野菜。まだまだ、そんなに沢山はできないのですが、少しずつ販売していきたいと考えています。よろしかったら、ご連絡ください。

石尾 修一
〇七四三―七六―二二二二

◆編集後記◆

事故米、メラミン混入問題など食を巡る問題が次から次へ後を絶ちません。これらの問題が起こる根底には経済効率を優先する思考が見え隠れします。

一方、アメリカ発の金融危機は世界を巻き込みグローバル経済のせい弱さをあらわにしました。このような時代こそ地域の自治力が問われます。

生駒フォーラムはこれからも地域の市民情報誌としての役割を果たしていきたいと思っています。(T)